

REPORT 好奇心事業

好奇心がはじける活動の一部をご紹介します



ピープル赤ちゃん研究所 活動報告

「教えて！赤ちゃんフェスティバル」

2023年10月二子玉川ライズにてピープル赤ちゃん研究所主催の「教えて！赤ちゃんフェスティバル」を開催。2日間のチケットは開催前に予定枚数終了の人気ぶり。同研究所は、ピープルが大事にしている自己の好奇心からなる「赤ちゃん観察視点」を子育て中の親御さんに共有し、還元したいという思いからスタートしたプロジェクト。このフェスティバルを通して、関係者や来場者が好奇心あふれる赤ちゃんの観察を通して自分自身の好奇心も思い起こされたところ々に話していたことが印象的でした。

先日、同研究所のワークショップが「WELLBEING AWARDS2024」(朝日新聞社など運営)のGOLDを受賞。世の中でピープルの赤ちゃん観察視点の価値が求められつつあります。



グローバル子ども観察

「世界の1歳の好奇心を知りたい！」

ティッシュにコンセント、子どものやりたい！を詰めた知育玩具「いたずら1歳やりたい放題」から子どもの好奇心を見つめて約半世紀。そんなピープルが世界の子どもの好奇心に目を向け始めました。日本の1歳がよく遊ぶものは世界の1歳にもハマるか？現地の日用品による“やりたい放題”の試作品をつくるなど、欧州数カ国でワークショップを催し、反応を観察。現地の母親へのインタビューなどを通して想像以上に有益なデータを蓄積できました。また、知育玩具が普及していないアジア諸国の幼稚園児にもアプローチを開始。子どもに楽しみだけでなく会話力や創造性を与えていると先生方にも好評。ピープルは世界中の子どもたちの好奇心をはじけさせる準備を進めております。



People

2024年
4月号



WEBサイトのご案内

コーポレートサイト
https://www.people-kk.co.jp/

IR情報
https://www.people-kk.co.jp/investorrelations/

赤ちゃん研究所HP
https://akachan-ken.com/

ピープル赤ちゃん研究所観察日記 note
https://note.com/pakkn

代表の桐畑や社員がリアルな気づきを **毎週発信中!**

ピートラ

ピープル(株)コーポレート広報 note
https://note.com/people_pr

チェック!
note更新や最新情報はXのフォローがおすすめ!

X (旧Twitter)
@PeopleCoLtd_JP



ピープル株式会社
〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-15-5 VORT東日本橋
TEL 03-3862-2768 FAX 03-3862-3730
ホームページアドレス https://www.people-kk.co.jp/



キーワードでみる People

おもちゃ

生活必需品ではない「おもちゃ」。ただ、ピープルでは創業時より子どもの生活は遊びが全てと捉え、日々芽生える好奇心に寄り添い、それを膨らませる商品を開発すること、それが将来の社会をよりよくすることに繋がると信じています。

こどもモニター

0歳～小学校低学年頃までのご家族、約200世帯に登録頂き、試作品モニターやアンケート調査にご協力頂いています。モニター調査から生まれたおもちゃは数多く、子どもたちの行動が思いがけない発見をもたらしてくれるなど、当社にとって、なくてはならない存在。

ピートラ

ピープルのトランスフォーメーションがテーマの情報発信。

(詳しくは裏面へ)

一番楽しく夢中でやりたいこと

メンバーの多様性の活用が企業発展には不可欠。個々の強みを余さず発揮するには自分が限界を感じずに楽しみ、夢中になれることに取り組む必要があり、そのために他人の指示ではなく自律的に物事を考えて行動できる人材であることが求められています。

好奇心

ピープル初の知育玩具「いたずら1歳やりたい放題」は発売当時の常識になかった、子どもの好奇心に100%応えた商品。そのポリシーは創業来、今なお変わらず。好奇心はヒトの原動力であり、社員自身も好奇心をもって仕事を楽しむようにしています。

トップメッセージ

TOP MESSAGE



子どもたちが好きなことを 好きといえる社会にしたい

ピープル株式会社
取締役兼代表執行役 桐渕 真人

ピープルは子どもから選ばれるブランドであり、 「子どもの観察」に基づいた開発力が当社の強み

ピープルは、乳幼児を中心とした子ども向けのおもちゃやサービスの企画開発・販売をしています。これまでも、磁石でくっつく知育玩具「ピタゴラス」や知育人形として親しまれてきた「ぼぼちゃん」など、多くのロングセラー商品を世に出してきました。

代表就任から5年が経過し、さまざまな企業改革を進める中で、当社のコアコンピタンス（競合他社に真似できない核となる能力、強み）は「子どもの観察」に基づいた開発力にあると再確認しました。競合他社が会議室や研究室で商品開発をしているのに対し、当社はさまざまな活動による「子どもの観察」を通して、そこに隠れている子どもたちの好奇心を発見・分析し、子どもたちに何度も遊んでもらって商品を開発しています。このように「子どもの好奇心」という普遍的な欲求に根ざしたものづくりで、子どもたちから選ばれるブランドになっています。

その一方で、当社が開拓してきた新しい市場も、競合他社の参入で成熟化するにつれて「コモディティ化」が進み、子どもが喜ぶかどうかよりも、お金を払う大人の好みや値

段、コンパクトさなどで選ばれるようになってきました。これに対して、日々変化し続ける大人の好みの流行を商品に反映したり、売り場や広告の枠を確保することに多くの人材を割く一方、利益率が徐々に悪化。また、「子どもの好奇心」という普遍的な欲求に根ざした当社のもものづくりから離れていくことにもなり、社内には「停滞感」が漂っていました。

本質を見つめ直してパーパスを制定し、 ロングセラーを守る戦いから新たな市場へ

代表就任時に「新商品を生み出すこと」を経営方針に掲げましたが、その後、ほとんど新商品は生まれませんでした。就任から3年が経ち、その原因がロングセラー商品を「守る戦い」に多大なリソースが費やされていることであるとようやく気づきました。

そこで、当社の存在意義やコアコンピタンスという本質を見つめ直し、2022年4月に「子どもの好奇心がはじける瞬間をつくりたい!」というパーパスを制定。パーパスを指針に本格的に企業改革に向き合って、私自身が責任者を

務めてきた子ども用自転車の事業を始め、ロングセラーの「ぼぼちゃん」シリーズも生産終了を決定するなど、大胆な事業の見直しを行いました。当初は、社内でも反対の声が多くありました。しかし、社員一人ひとりと直接対話し、時間をかけて一人ひとりの理解と賛同を得ていき、今では社員一丸となって前向きに新事業に取り組めるようになり、社内はやる気に満ち溢れています。

全世界の子どもたちを対象に 子どものためのブランド確立に挑戦

こうして生み出されたリソースを新事業開発チームに最大限割り当てつつ、中長期的にブルーオーシャンである新事業をスピーディーに生み出せる新たな仕組みづくりを行っています。直近では、「子どもの好奇心」を起点に生まれた8つの新事業チームが進行しており、2025年春にその第一弾としてローンチし、「好奇心事業」を創造していく計画です。

また、新規事業の一つである「ピープル赤ちゃん研究所」のイベントなどを通じて、社外の人たちとも積極的に交流

しており、新たな事業アイデアの種を育てています。さらには、パーパスに基づいたグローバルプロジェクトも発足しており、将来的に全世界を対象に「子どもの好奇心がはじける瞬間」をつくれるブランドの確立に挑戦していこうと思います。

さまざまなハードルや垣根を超えて、 子どもの好奇心がはじける瞬間をつくりたい!

新たな取り組みの中で、私たちの存在意義や「やりたいこと」が明確化し、さまざまなハードル・垣根を超えて自由になったように思います。今後は事業活動を通じて、「男の子だから」とか「女の子だから」とかといった固定概念を取り払い、ジェンダーレスで、子どもたちが好きなことを「好き」といえる社会になればいいと考えています。

今期・来期にわたって本格的な事業再編と新規事業への投資が先行しますが、長期的に持続的な成長を続けるために必要な準備期間だと捉えています。株主をはじめステークホルダーの皆さまにはご理解とご支援を頂きますよう、よろしくお願いいたします。

TOPICS 製品紹介

磁石でピタッ!で 32年のロングセラー 「ピタゴラス」



「ピタゴラス」(米国:Magna-Tiles)は「空間認識能力がつく」など知育の観点で評価されがちですが、磁石プレートがピタッとくっつく気持ちよさ、図形プレートゆえ思い浮かべた形が簡単に作れると、子どもに喜ばれていることがベストセラーの理由と原点回帰。「ピタゴラス」だから好奇心あふれる造形遊びに没頭できると、全国の保育園向けのセット販売の要望や、また児童館や子ども向けイベントから声がかかる頻度が増えているなど需要がさらに拡大しています。

発売から27年 今までありがとう!

「ぼぼちゃん」



「ぼぼちゃんシリーズ」は2023年9月に生産終了を発表。累計販売数が約580万体和ピープルの代名詞的な商品であり、発表と同時にマスメディア・SNSで情報が拡散、次々にあがる惜しむ声に、改めて「ぼぼちゃん」の存在感の大きさに気づかされました。それでもこの看板商品の終了を決断したのは好奇心事業への全社リソース集中のため。「ぼぼちゃん」のように子どもたちに身近で好奇心を満たせる新たな事業を生み出すことに注力していきます。